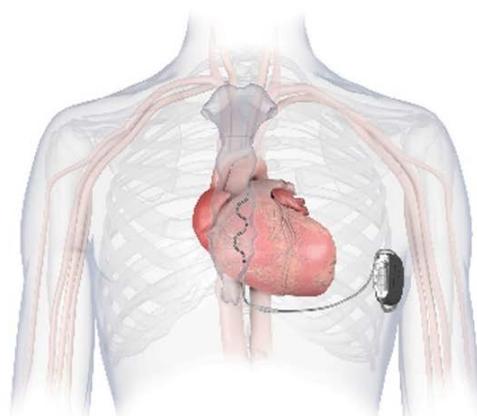


2026年3月25日

報道関係者 各位

群馬大学医学部附属病院において、
「血管外植え込み型除細動器 EV-ICD」の植え込みに成功しました

群馬大学医学部附属病院（群馬県前橋市）は、2026年3月18日に新型の植え込み型除細動器である「血管外植え込み型除細動器 EV-ICD」の植え込み手術に、県内で初めて成功しました。



（血管内植え込み型除細動器 EV-ICD、日本メドトロニック社）

1. 本件のポイント

- 新型の植え込み型除細動器である「血管外植え込み型除細動器 EV-ICD」の植え込みに県内で初めて成功した。
- EV-ICD は、従来の植え込み型除細動器と比較して、血管とリードの癒着を避けつつ、頻拍をペースティングで停止させることができる機能を使用できる点でメリットがある。
- 従来の皮下植え込み型のもより本体サイズが小さいため、体格の小さい方や小児への植え込みにも適用しやすい点が特徴。

2. 本件の概要

植え込み型除細動器は、心室細動などの致死的不整脈が起きた際に、電気ショックにより不整脈を停止させる医療機器であり、本邦では年間に4000人以上の患者さんに植え込まれています。

従来型の植え込み型除細動器では、電気ショック用のリード線を静脈内または皮下に留置していましたが、前者では血管とリードが癒着し血管を痛めるリスクがあり、後者では異常な速い脈に対し、装置からより速い頻度で電気刺激を送り込んで心臓を刺激することで、頻拍の停止を試みる機能（抗頻拍ペーシング機能）が使用できない欠点がありました。

今回植え込みを行った「血管外植え込み型除細動器 EV-ICD」では、胸骨の裏側にあたる胸腔内へリード線を通し、心臓の近くに留置する新しい方式を採用しています。これにより、頻拍をペーシングで停止する機能を保持しながら、血管とリードの癒着を避けられるというメリットがあります。

本治療は全身麻酔下に行い、手術時間は約 2 時間です。また、本治療は、専用の手術手技を習得した医師のみが執刀可能であるため、当院では田村峻太郎病院講師（循環器内科）が米国において手術手技を学び、その後、当院へ本治療法を導入しました。

3. 今後の展望

血管外植え込み型除細動器 EV-ICD は、血管とリードの癒着を防ぐのみならず、リード感染のリスクを減少させることが期待される新しいデバイスです。さらに、皮下植え込み型除細動器と比較して本体のサイズが小さいため、体格の小さい方や小児への植え込みにも適応しやすいという強みがあります。

これらの利点により、従来の植え込み型除細動器の適応が難しかった患者さんに対しても、新たな治療選択肢として貢献できることが期待されます。

4. 関連リンク

群馬大学医学部附属病院 循環器内科

群馬大学大学院医学系研究科 不整脈非薬物治療研究講座

<https://gucvmed.med.gunma-u.ac.jp/>

【本件に関するお問合せ先】

群馬大学医学部附属病院 循環器内科 田村 峻太郎

【取材に関するお問合せ先】

群馬大学昭和地区事務部総務課広報・保健学庶務係

TEL : 027-220-7895 FAX : 027-220-7720

E-MAIL : m-koho@ml.gunma-u.ac.jp